

を求めたことがあるが、その成果は明らかでない。

クマサカガハ 熊坂川 江沼郡熊坂領水ほし谷から出で、別に妙高谷から出たものを併せ、大聖寺の山田町領を經、大聖寺町を道じて大聖寺川に注ぐ。この流末は藩侯居館の前を過ぎ、鵜深の用をなしてゐた。

クマサカケチ 熊坂口 朝倉義景の感狀で、年不詳卯月十一日附、鳥井熊法師宛所のものに、『去月十三日加州凶徒就到金津上野、於熊坂口合戦時、父與一左衛門討死。首一小者竹君捕之、首一小者左安捕之、忠節爲神妙者也。』とある。熊坂口は越前金津から加賀の熊坂に向かふ口と見える。

クマサカゴエ 熊坂越 江沼郡に在る。茂融紀聞に、今大聖寺町から左の山を熊坂越といふと見えて、熊坂の部落を經て越前に入る道路である。

クマサカシヨウ 熊坂庄 江沼郡に在つた。祥永三年四月の東鑑に見えて平頼盛家領であつた。後宜秋門院領となつて關白藤原道家に譲り、道家は九條禪尼に與へて宣仁門院に譲らしめた。又東鑑紀年録に、『弘安二年庚辰五月晦日平時宗^{光光}奮至。捨^{加賀}熊坂庄于東福。』康正二年造内裏段錢并國役引付に、『四貫百十五文千秋刑部少輔殿賀州熊坂庄段錢。』又隆涼軒日録寛正二年卯月廿日の條に、『東福寺領賀州熊坂庄關所與伊勢備後入道訴訟之事、以寺家連判之狀並目安伺之。』など見える。この庄號は江沼志稿に、元和年中記に熊坂庄大聖寺村とあることを記するが、その後

クマサカシヨウ 熊坂城 江沼郡熊坂に在

つた。越登賀三州志故墟考にいふ。熊坂村垣内吉岡村より巳の方に當る。弘治元年朝倉宗滴賀越を撃つた時、越將堀江中務承景忠この堡を燒いて山路大聖寺へ攻入り、又加賀古跡考には一授大將後藤才兵衛がこゝに居たとあると。

クマサカチヨウハン 熊坂長範 堀麥水の越の白波に、江沼郡大聖寺の關門を入つて右邊の孫中の里を熊坂七郷といふ。その中石坂に標布があつて、この所に熊坂長範が生まれたとの口碑があることを記してゐる。芭蕉發句集に、『加賀國を過るとて、熊坂がゆかりやいつの玉祭。』

クマサカバシ 熊坂橋 金澤橋梁記に、『熊坂橋、東御坊横堀ばた』とある。藩政中は惣構堀の橋であるから、橋爪に橋番人が居住した。橋名の來由は不明であるが、龜尾記に、古へ今の橋番の所に熊坂と異名する男達が居たから名づけたとある。

クマサカヤマ 熊坂山 江沼郡熊坂の山をいふのであらう。源平盛衰記祥永二年五月二日平家が加賀國に攻入つた條に、『先陣は安宅につけば、後陣は黒崎・橋立・追益・楡越・熊坂山・蓮浦・牛山・原まで列たり云々。』と見える。クマザハヒヨウゴ 熊坂兵庫 小字長次郎、美濃の人。父は善左衛門。兵庫文祿中淺野幸長に仕へ、二千石を受け、征韓の役に從軍し、長晟の時大坂の役後功を以て太刀一口並びに祿八百石を加へられた。後事によりて流浪し、寛永三年前田利常に仕へて三千六百石を賜はうて辭し、定火ノ番衆となり、十九年公女宮姫の智忠親王妃となるに際し、奥村榮政と共に

クマサカシヨウ 熊坂城 江沼郡熊坂に在

に扈して京師に赴き、後に光高の諱伴となつた。歿年不詳。その子孫は絶炊した。

クマダ 熊田 能美郡板津郷にあつた舊部落。クマダジンジャ 熊田神社。熊田神社。熊田郡熊田神社があり、今昔物語の加賀國評蛇蟻一島行人助・蛇住・島壽に熊田宮と見える。クマダジンジャ 熊田神社 神名帳に能美郡熊田神社があり、今昔物語の加賀國評蛇蟻一島行人助・蛇住・島壽に熊田宮と見える。

永中手取川の洪水に流失した。その時邑民は吉原村に移り、吉原八幡の境内に別社を興して、熊田の神靈を祀り、之を産土神としたと傳へて居る。式内等舊社記にも『熊田神社。式内一座、板津郷熊田村鎮座之處、中古比樂河洪水。社地村落悉流失。邑民合・併于吉原村。故遷座社於吉原八幡之社地也。』と見える。白山記には、熊田の舊社のことを『熊田、粟』と載せてゐるが、その粟は粟生で、粟生は古への熊田村の近邊だから相混したものと思はれる。

クマノ 熊野 鳳至郡川原田郷に屬する部落。産土神に熊野社があるが、社號に依る邑名か、邑名に依つて勸請した祭神かは、容易に判斷できぬ。クマノイ 熊野 熊野は加賀白山の産を白山熊野と稱して上品とするといふ。山海名産圖會にいふ。『熊野は加賀を上品とす。越後・越中・出羽に出づる物は是に亞ぐ。加賀に上品とするもの三種、黒糖・豆粉糖・琥珀糖是なり。中にも琥珀糖最勝れり。是は夏臘・冬臘といひ、取る時節によつて名を異にす。夏の物は皮厚く、臘升少し。下品とす。八月以後を冬臘とす。是は皮薄く、臘升滿てり。上品

クマサカシヨウ 熊坂城 江沼郡熊坂に在

とす。されども琥珀糖は夏臘なれども、冬の臘に勝る。黄赤色として透明り、黒糖はさにあらず。黒色光あるは是世に多し。』とある。

クマノガタ 熊野方 羽咋郡に在つた地名。應永廿四年十月二日二階堂出羽守の判書に、『能登國直海保之内熊野方切岩新田』とある。後世の熊野方郷の名はこれから起るのであらう。

クマノガタゴウ 熊野方郷 羽咋郡に屬し、藩政時代では、領家七海・生神・牛下・福浦・三明・中島・長田・中山・町居・日用・草木・日下山・谷神・荒屋・豐後名の十五ヶ村を含んで居た。富木八幡社記には熊野郷に作る。クマノガハ 熊野川 鹿島郡井田の三尾山から發して、熊野浦一名不動瀧をなし、熊野川の下流は井田・東馬場を過ぎて濁川に注ぐ。流程六軒。

クマノジンジャ 熊野神社 羽咋郡谷神に鎮座する。式内等舊社記に、『熊野神社。熊野郷谷神村鎮座。舊傳云。往昔熊野一郷之惣社。鉦打村熊野社之本社也。』とある。クマノダキ 熊野瀧 鹿島郡井田なる三尾山の麓に懸る瀑布で、下流熊野川となる。瀧に近く不動堂あるが故に、不動瀧とも名づけらる。クマノタニ 熊谷 珠洲郡正院郷に屬する部落。クマノシダレザクラ 熊野の枝垂櫻 鳳至郡熊野の眞宗東派光榮寺境内に在つて、其中最も大きいものは目廻り四米八で、高さは一・一米を測り、その外にも尙目廻四米五、三米六のものがある。樹齡については詳かでない。

クマサカシヨウ 熊坂城 江沼郡熊坂に在